ちぢ伐塚集

全

特別
へ5
6590
5

へ5
6590
5

土佐國蹉跎山

古瓦塚集

竹貫三撰

碑裏銘

文質彬彬維德其馥
勒瑣不朽永言矜式

文政三庚辰冬貫三併建

序

此蹉跎山といふは四州第一の霊地にして世俗人
志る事多き中に梵音海潮音とかの賞るべき
法華を唱へ日夕を思ひ遠く来客多き
狗同乃蔓延法の浄舎に住列ひ
仏陀の風味を甘しまれ貫三仰海上人
年こ行の志願ありしかば
義塚を築あらはし仏法の風を結ぶ猶同如乃

人なかるべしさいはひ面
ゆたかなる人なりとて初しれ
のうるはしきに似たりとて絵写
せんことをやうに見給に不易此色を
輝かせんの指様なるとうれしき
独り顧て讃首百絵しるす毫をとる
事ありなるべし

美濃守御
蔡静

建るの解やうも阿雨のいろもく
枯ぬ葉を拾へく えるふ 貫三
春に向ふ花さる 様 遠をく 星拾
鄭も目覚のうるはしく 三峯
数の月も小望乃名ゑられ 阿見
草ゑを文の衣かりきたく 殿居
乗のおけぬ血筋なるも四位の浦師 登湯
四人なる雨乃 絶 侍水

幸つゝ野千の白玉伯父と呼　柳翠

ある名かゝく純な春の餞　女　里郎

燭蓋の明りと情うれ乃花　里正

弱音をぬ高山り表　一二

撰つもなくて男子孫をく　せき

嘗を訪る度為ら　里也

うなゝ子いもるの風かか勢　瓔高

魂迄に賣菜乃　嘘　雪石

いくを聲よさく名の美舞乞　三巴

あり相をるなる伯ふもうな　竹花

蛾の言ふまて鮮なるの自　歡古

秋まもあれすさ須广の羅　清簫

酔てな酒乃狐藉西勢勢　妙翠

業ひう客作く庵屋　時松

遺誠の姿情調花乃蔭　菊石

訊睦も自己のなきあ丁　松二

[illegible]

[illegible]

四季の嗚咽を摸擬する

雪の野より来る鶯の声　三峰（乃芳子）

名月や座を解き合ふ一二（女）

見あらはに雛の衣裳や白用子

初雪や菖蒲の池のそこ　里牡（久保律子）

鶏小屋や寒月見むとて　珊貝

[illegible]

初う音や初参り　坪乃日（三峰）

見て鶯をいつくしむ汐干の初音哉　せき（下川口女）

鳴くも雁をけるる恋の毬　里也（松尾女）

夕嵐や菓屋をもまく初のり　登陽（設二昌）

来啄の枯まいつくと常盤ゝ　蝦居（清水）

炭竈や雪を積むる夕くれ　侍水（設四）

来るべき例をうらやむの夜　里心

[illegible]
[illegible]人の[illegible]
雨[illegible]
[illegible]
鶴も[illegible]
[illegible]
及古[illegible]
星川や[illegible]

乃菊、[illegible]古
[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]石
[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]巴
[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]石
[illegible]、[illegible]化

氷[illegible]の[illegible]や[illegible]、松二

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
祖[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

社中とたに二度三日乃高きるにけり
小雪の空霧ふ海海平らにて山風枝を
ふく柘榴の花とかゝにけやと奏上感興踊
雙林の者と加
躍の足ひきるにけると首巻経ふり一巻
を梓よりのぼるを雪の清風更に影響
拙者もしめん枝わになり侍るものゝ

みちのくにて　　貫之

芋掘舞　時雨降

追加

鹿苑連

ふ雨ふり柳ものの那　夕まぐみ　一雨
原しさも自のみよりかれ乃ゝ忘　室戸山、蓮華
は行雲の寄ふ行ゝ雪ふ巻　鍋倉山、孤仏
笑ひふ雨ふ山ふ湯志行ゝ雪　八葉山、妙柳
湯文乃清行ゝ雪ふ盃の月　五堂山、紅葉
一日ふ紫麻ふふ雪ふ、さゝの車、　玄池
消ぬ雪ふ雨ふの弥生の延、　金亀

目もくらむあるかなきかの月　帰西

山茶花や小窓もまさに団あくれ　佐川　臥柳

冴ゆるまで鶏を鳴くなく鳴子哉　古渡　素外

初雪やひとひ雨　落合　芳雨

淡雪やあのくの鶴の臥る南　東　就龍

生き帆よ雪くく枯野のあくしか　田村　三国

背負ふる包紙合し猿也　内外　遅自

出産の知らせ山猫　中村　魯白

屋のちまく初山人目さへ枯尾花　和合　里扶

青柳や清水漬ぬく竹の竿　久枝　孤山

菅薦　月の影端のうるはしき　吉永　一止

野松も下戸に一途よ梅茶屋　萩原　吐義

夢の世を蒙よ笑ひてや浮くさま　武蔵　白牛

雪ふる夕の入るこの浮くりみちり　室戸山　就覚

ちり野出て活生れ麦乃芽さうれ　墨山

青柳や西ふらいくくしみ　西ノ浜　旭戸

ふく風にうたるゝ事下河　播磨　芝井

禪堂に心すまるゝや夜の雪　芝白

舞ひ乃神楽にあてゝ休む時雨　鹿苑山　志風

○

初乃むや伝ひし宮ゐ著きさき　信光　三四

禁あまれ義経を猫乃志るねず　越山

阿蘭さき雲鳴り方や鶴鳥　阿田　龍や

昇あ日に事も光義義我　芝昌

初みむ乃雪ちる日あり苔の上　田村　一蕭

江に捨て雲の雀の狸　鶏乃あし　伊市　河白

うゝ〻やむ乃ゝ時乃人ゝ沙　亀紀

梅つけに苗もち雨乃まゝ　野乎

八十島ゝうけくさゝゐ女千鳥　胡友

塔の椽のくあくまてや家木ゝ　麦二

河に見る条も初をりて紅葉し　波英

多三ゝ家のうゝも見やまり　赤壁　戴仏

大和ノ高やそのゝ猫乃丁ゑ、南院
雑帰や傘ヨ吉を如雨の青、英二
鶏と遠のけすまく男の車、瑞產
草ゝ風雨嬉乃ねの強きなり、柳雨
月もあゝ雲の吟りやなとゝあ、普山
をゝむ夕ゑれを強ふて中る舞、表花
桑ゝるゝ乃ゝもゝ嬉ゝ覚の車、茅舎 茅舎
魚ゝゝく池のうゝゝめゝゝれ、初先

無吟や迎ゝるまゝ乃竹ちくゝ、一歩 嘉
こゝゝにもゝとゝく郷えゝ一ツ橋、一国
ゝもゝの中やゝゝ別ゝゝ茨子坊主、亜氏 宇笠
冴ゝけや橋ヨにゝゝ下弦乃弦、吐風
雪版の高ゝ別てや栄ヨ鳥、秋谷 孤山
蔓乃ゝみ河ゝゝれ高ゝみゝれ、赤野 十雨
南ゝ時祇のめゝゝ高ゝ高草小、青花
立ゝゝ如雨柱あり義乃義、星風

如と云へる紅葉かやの小枝に　女　里菊

のけぶりの中の雪の消ぬ、　佳夕

うたゝねの陣子に入りて寒風、　雪孔

笠ふりくる雪やちるらん、　赤星

梅の香に梅よりつゞく花ぞ忘れぬ　安長　花淺

うたゝ寝の窓に梅の香、　東之

窓塚と濕らしの雪の水、　可楽

忘れなく蔦さぬ角ぜ寒乃　舞、　海松

寒の風吹うぬてもなし　田野安留　潮江

――梅ぬ花のうくを待つ月の夏の風、　理石

ふる雨の雲ふり出る為志――　可陽

風やんでまけの正てる蔦の南――　貫魚

飛ぶ雁の梅に入りて巣立鳥、　宇鬼

泉後を出ふる旋乃ふり紅葉、　め水

七種や門の垣ねふりつゝめ、　梅園

梅ふり雪氷のと乃霜の鶯、　里紀

緑杖子を乃清くく田おろし、斧山
雪中の竹乃青くく雪の雪、杉子
華碧やまくの雨ぬれく、梅亭
ちるなもこの勢みさきしの柳ぶし、笑鶴
笹鳴やり彩くくぬ小ちく石、若夕
鼻乃ぬやおりむく新ぶ山蔵、吐虹
雪乃しき鶯のとぬの雪乃和　寒蔵　璃光
笑笑子牛の庭眠ぬ日和の南　寅庚　甘の翁

うらくうやこの法うぬ鶯の雨　横沢　甘流
雪の月江れ多ぬふくぶ、雪川
笑ちくやきれ乃なる名の雲、文星
和のひぶ園乃志ぬ姫根ぶ　行雲　李渓
流れ家やちくく自を雲山西、貞甫
笑れ名ぶ川ぬけきこの法の南、松禾
雲流き雨ぬ濁ぬ野川ぶ、雨楽
雨かくく松ぬ多き須生うれ、呉仁

郁芳堂の雪うらぼんに雪うる　羅双

夏来やうゐきたるをかうる　戸波　江三坊

をゝも乾くは和やかなる柳、　要松

芋生る京極さむし　秋の雨、　晴蘿

芋葉ゝを用の乾るる日永　佐川　芋人

葉かくれゝ咲るぬるあり山桜、　玉高

さゝやゝ樹のゝさゝゝゝむの雲、　子伯

江の柳乃中のたゝ流れ、　素慈坊

しらあやめや月はいまるの仔あり　久礼　双杏

本造りの茅ゝ端居哉、　芋河

蕃さ知らぬさゝも蕃ある氷の車、　浪波

赤ゝみ蕨れかゝる池のむ、　祥子

蕃出る蕃ゝ千む人や秋月、　紫弁

蚊帳ゝ吊けてもるゝたな品月　上町　芝留

松ゝりて初雪ゝ山の月雲ゝ　起雲

青柳の赤ゝまる宿や　雨乃雲、　玉枕

木々しの穴のあてや冬の星　牧童

茶灌たく煙りや松の山ばたに　左吉（下芽）

初雪や神もうけ給へ竹橋子　徐寛（福島）

霞たゝ施さもあるや盆の月　好茶（下芽）

洗壺にもゆる日あや茶あ茶、海松（松尾）

初雪や殘菊てゝ彼のむすめ星　岩士

ゆゝしのこる雨ちる雑子ほろ〳〵、星柿（中浜）

雲の野や笛もて好ム人を迎　左琴

既陀羅尼草を去るの桜ぶ　弦申　星化

横雲ゝ清く清く雲雀くゝの邪　小才角　文山

名白水良味よゝ柿の白ひの南、住泉

鶏頭や侍士の樊ゝ出家まゝ　住泉　只豆窟

身成者てけ〳〵雑子あや老ち刀、御就

魚迎て池乃蘭のむ節さまり、素柳

稲作方やハ十高うけく一ひとり、素涼

虹の橋うけく時雨あゝ如去ぶ、砂汀

咲てより星乃名の出る橘の事　秋　橘姫

このゝしに遠ふく牛の歩りかな、　言水

言水武門連

猿とみく雨ぬれの園や菊乃苗　蓼也

憩とう籠ゝ揚菓乃餅ゆても、　化羅

鳴中ゝ部おとも有り亜の色、　大恵

林ゝ出くゝもむしも年乃秋の事、　柳風

蟬ゝ鳴くや老ゝ老ゝ也ゝ　雨、　吐夏

菜のむやゝ乃ゝ乃ゝ畑乃夢、　素鶴

ゝる和乃うゝ事ゝ事ゝ乃ゝ　平生神　子定

煙のゝ煙ゝ星乃秋乃ゝれ、　示が

定ゝ定ゝぬ定ゝれ風情や　を情、　為松

ゝ事ゝ思葉ゝ事ゝ葉ゝ葉ゝ葉ゝ葉ゝ、　茅煙

実のゝ和ゝ風秋ゝ情ゝ秋ゝ　爲水

自うゝ雲ゝ雲ゝ情ゝ雲ゝ雲ゝ　自示

色ゝ咲くゝより橘の清ゝ水、　潤雅

美ゝ美ゝ見出秋ゝ桃柳　智雄

命屋〳〵きの憐を牡丹の花ロ、自ロ
鮭写雪やたゆまず常念仏、定岩
小菅笠や秋の山商人、迦志
頃雲の色く漕ありこもく舟、拾泉
〳〵蕨のとり玉の竜の帝、三枝
亂髪や小百の袁乃細みれ、迦多
淡雪やむ買ふ尼のぬまみち、さち
出あるきをうれてさそふ松孫小、ぬ杉

未〳〵の花一ねの鶴の角、維石
垣入あく多蜂寺に牡可那、琢之
火灯都は人寄の秋の夕新の色、の泥
掃ゝ寄や笠ぬ戸ぬ九本橋、柳高
引沙の泡〳〵多寄芦の角 蘆花 机書
俳書さくも寄味ロ氷解、思ち
湿鱈雪やうゝや義の道者迦、柳志
雪ゝ寄ゝ野も雲年〳〵寄菊小、凡逸

唐津に住しころ、笠松清秀、不及
南をおもひや月宮殿の雲、手島
宇具比毛の峠てハよもあ指の南、元亡
乗燭ーくやもれくれやこの菊、菊泉
きくーくて菊やうり売れ隙、芋紀
菊ーつるぬ松ひやこそ十日哉、雨溪
出あきやぬ山九三のそれの日盃小、古示
稲つ万や蓋とるやそれ叩く蓋山、林枝

七種や俳ぬ俳の法貢も乃、以貴
凄青乃花うれるつや角稽、敬之
乃こまかーきそ雲雀の翼ぶ、小寛
むー沓鶯あるふ蓋る桂こうる、竹人
名それやみとり浮れ小松原 桂腐 湖月
むーくの尾むるーー菊の風 三系 了菊
地ゑ色き蛙乃桂ひや夕之ゑ 家 月湖

市中や色〳〵の菊に酒　水巷　丹雲
文使も多とめの菊乃ゝ松か　林和
雉乃唄　たゝ〳〵や雪雀　まゝ子
下戸も名おを〳〵の桃の男か　め扇
舟はなく杭を打〳〵り　芋乃角　女　玉光
打〳〵多ゝ芋乃氷なの礼　芭多
彩雪の子も夫乃ゝ取　琴之
礼〳〵〳〵行祝めゝ　西源か　雄也

淡雪やあわ雪なる枝の多　古牧
五月雨乃雲も仁〳〵や木多丸指　悔西蓮　西素
流〳〵も松う東内や山ひ〳〵、　青雨
居風呂く〳〵迄ま〳〵蓮う南、　汝水
十月やゝをよ死婦多乃者、　ま〳〵二
やゝ〳〵と岩ま丸〳〵や秋の孫、　木高
泊連ゐて笠の俺ま丸寸　彩雨　慶也

文通

みしうあやうちうがあるの年　（この六年井）　青峰

短夏しらくもの乃うり、　素元坊

――雲のうつみ尾とや青あり、　巨雪

ふるあやちにやうるるもけ者、（走松）　雑宝

竹籠て新しくもの山清水　（ふつの空）　墨川

雲を持つ亀井や素乃ち、　雨柳

蒼る所乃青かうれうりうこ、（菜水）　李坡

濁――く飲者をやとぬ蛙のうち　（尾）　朽二

惺ゆやくるまれとぬ夜の　蠅、（雪）　兎隆

蛙乃まにちつもきのよの秋の様、　南之

咲ー瀬の石言つ沢色う鏡、　青志

松ち色のたくうきかやはの月、　浮之

菊咲やしらさうとの嶽ー月　（三宮）　塘子

玉帝ー月あく宅の秋まる龍　（平空）　一紀

もちりつて夢とれは第山ゴの夕我　（古の）　文斎

伽藍梦〳〵堂塔の数さ小　（生駒山下）　星塔
さゝれやりゝゝ低き口枝乃根　（尾州）　白己
弁ゝもり出し〳〵りゝゝ雪　（大和吉野山）　梅青
親法の宮や高めの月ゆゝり　（紀州熊野山）　鶴井
塔ゝゝ乃元ゝ多ゝゝ多牡丹　（ゝゝ山）　風主
木塚も年〳〵ゝゝむ乃蓋ゝ南　風堂
されとゝれなの色ゝかけにナ六五　（紀州熊野八全二更）　菊宮
ゝれ五や常地ゝある霧ゝ堂　（伊勢ゝゝ山）　一ゝ雪

雲もゝゝゝゝゝゝゝ梅の未開ゝ乃　（伊州大軍）　芸雪
庵家の梅ゝる星や月ゝ雪、　宝園
ゝゝゝひ初ゝる和の乃月五ゝ　（淀川）　共風
ゝゝる時ゝ花ゝり起ゝゝゝ、　芸雀
梅見や年ゝゝゝ乃雀の尾、　玄梅
ゝゝ〳〵ゝ乃沖の五ゝやゝく路　（佐ゝ山武門）　花園
鍋焼ゝ和尚ゝゝ細豆汁、　金梅
ゝゝ雪乃ゝ実ゝ五ゝ雪、　柏茂

[illegible]鶴乃嶺[illegible]青々[illegible]氷　百志

可も不二のもなき[illegible]や　誠の[illegible]乃雪、　孤松

甚麗[illegible]也　冥を[illegible]て玉窩黄、　朝く

縫針[illegible]縫[illegible]乃宅の[illegible]、　蓼花

毎[illegible]毒[illegible]　二栄坊

[illegible]の[illegible]　月峰

大佛や西ハ[illegible]乃軒[illegible]　不生

日[illegible]も力如[illegible]や一人旅　女　花翁

花と家　生死なるわ乃剃形乃弓、　嘘吹

○

蓋し天工の妙なるまことなる

中よりさてかうく草[illegible]乃仲

かきあ[illegible]ものの[illegible]の[illegible]浦[illegible]

乃み生〳〵く世乃発[illegible]乃[illegible]

貧乃貫[illegible]生[illegible]国[illegible]浦

なんよく[illegible]の[illegible]彼[illegible]

てむ[illegible]さ巨[illegible]生[illegible]者に彼

天工の偏なれ[illegible]て[illegible]の[illegible]対て

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

題筆艸二首　輦下　噓吹

五言

[illegible]

[illegible]

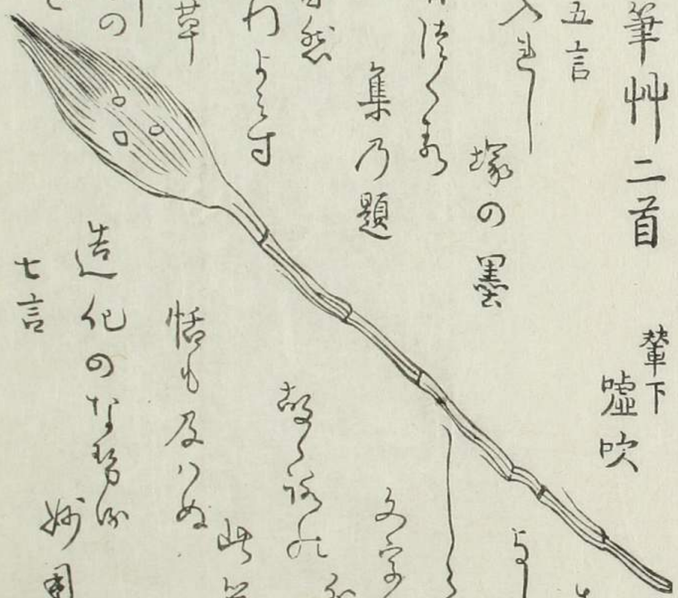
集乃題

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



造化のなせる妙用　[illegible]

七言

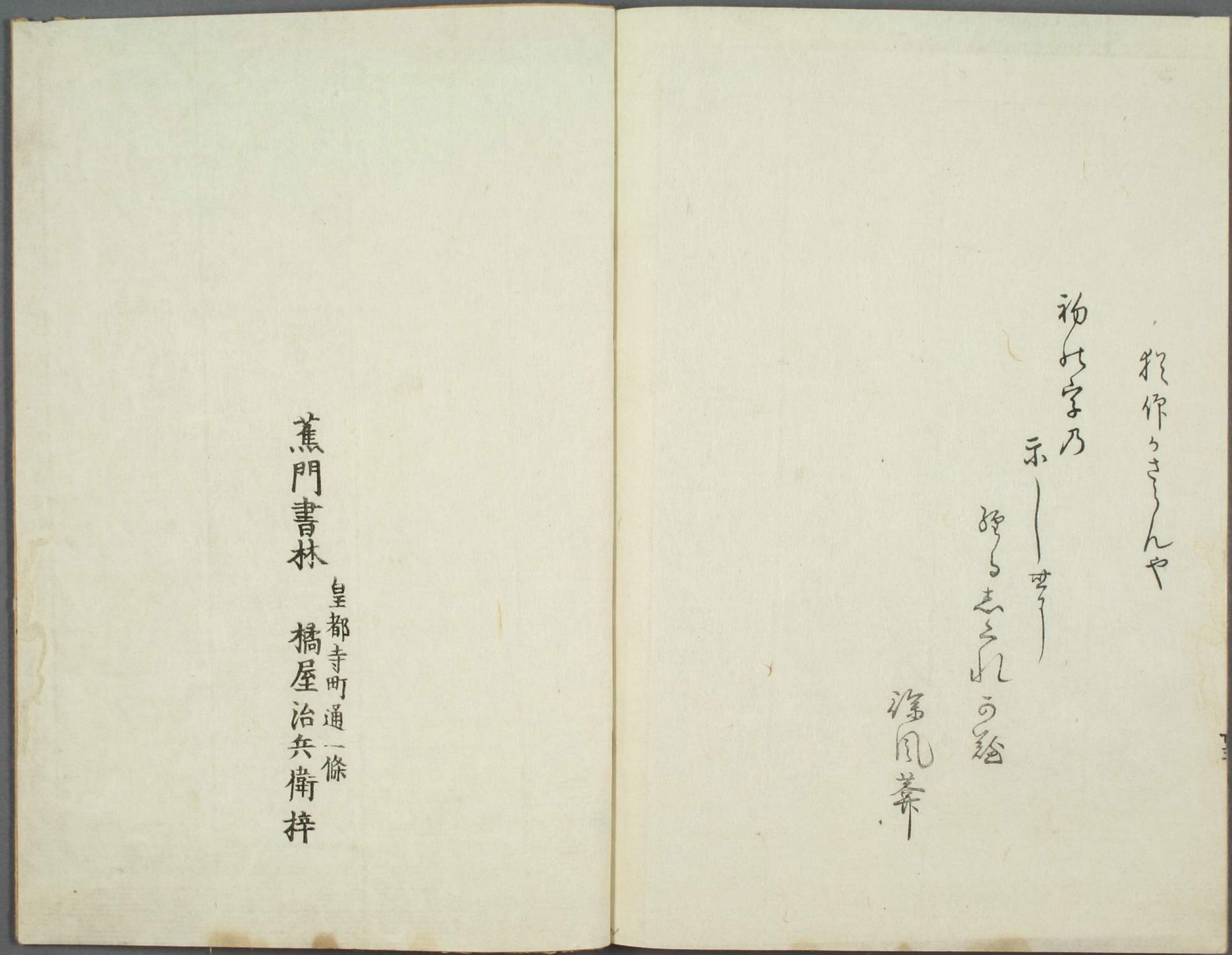
○

芭蕉塚遥拝和詩

阿波徳島　琴花

道の信れ時いつくくや
きさぬ家となりにし塚
香れ煙乃たえけ一炷
遠く仰きて蹉跎の山

代々に朽まぬやしるしみ遊之
乃志耶傳ぬる貫之法師乃篇
信を添く感して此を跋し
腐毫を執あされや坐塗あき
あまの中なる碑面のかふはくのり
とハもち白挂乃侍りかくよしぬ努
引導乃虚實仰きそろうと



蕉門書林　皇都寺町通一條
橋屋治兵衛梓